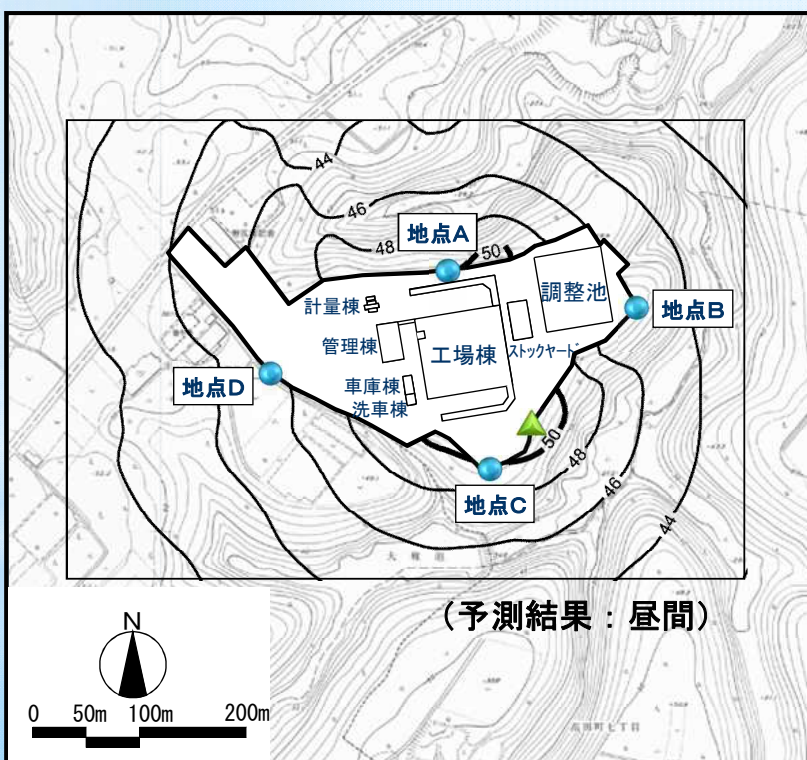


施工時

工事用車両による道路交通騒音・振動

- 工事用車両が集中しないように工程等の管理や配車の計画を行う。
- 工事用車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。
- 不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。
- 工事用車両の整備、点検を徹底する。
- 工事関係者の通勤車両台数を減らすために、通勤車両の相乗りに努める。

供用時 ごみ処理施設稼働による騒音



凡 例

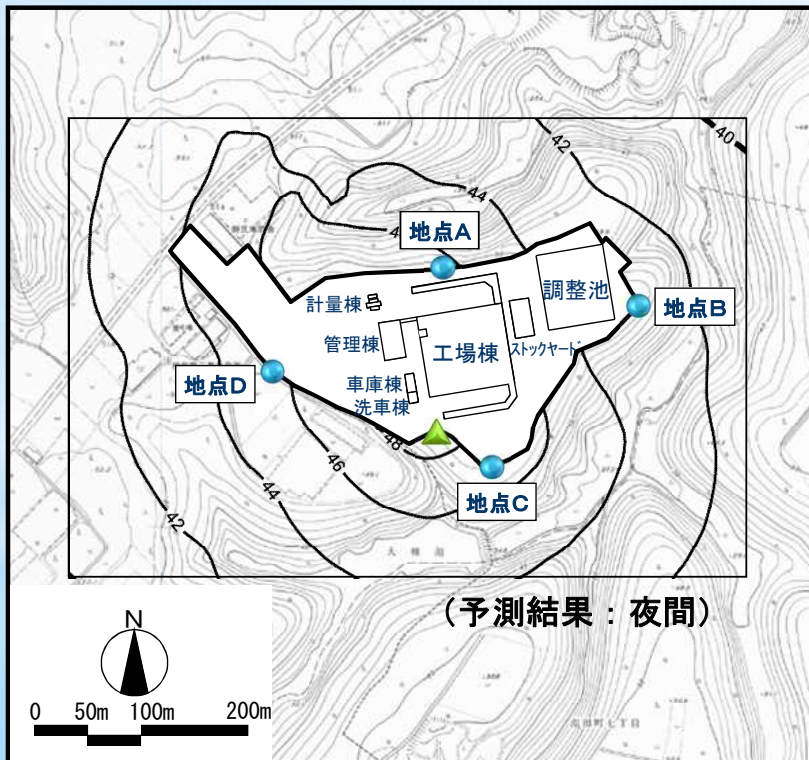
- 対象事業実施区域
- 等騒音レベル線
- ▲ 最大レベル地点
- 予測地点

[騒音]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
	昼間	
最大	52	昼 間：60以下 朝・夕：55以下
地点A	50	
地点B	45	
地点C	50	
地点D	46	

供用時 ごみ処理施設稼働による騒音



凡 例

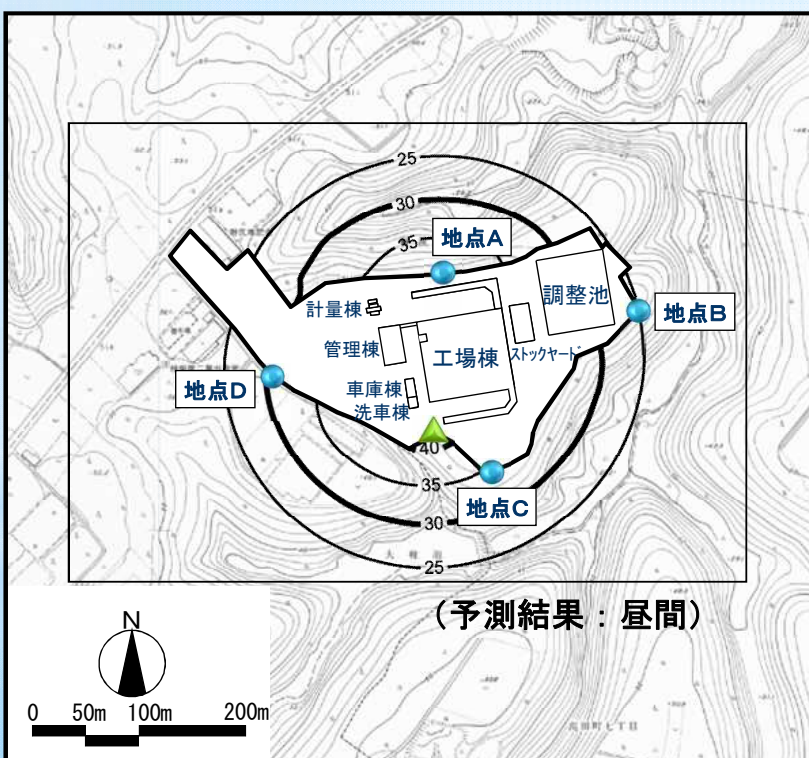
- 対象事業実施区域
- 等騒音レベル線
- ▲ 最大レベル地点
- 予測地点

[騒音]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
	夜間	
最大	49	夜 間：50以下
地点A	46	
地点B	43	
地点C	47	
地点D	46	

供用時 ごみ処理施設稼働による振動



凡 例

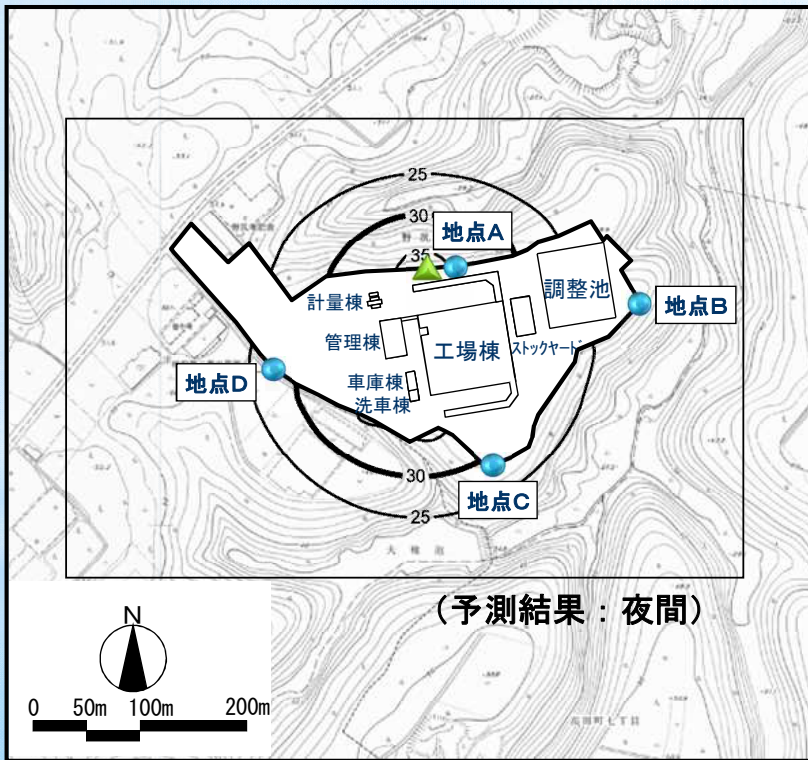
- 対象事業実施区域
- 等振動レベル線
- ▲ 最大レベル地点
- 予測地点

[振動]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
	昼間	
最大	42	昼 間：60以下
地点A	38	
地点B	25	
地点C	35	
地点D	30	

供用時 ごみ処理施設稼働による振動



凡 例

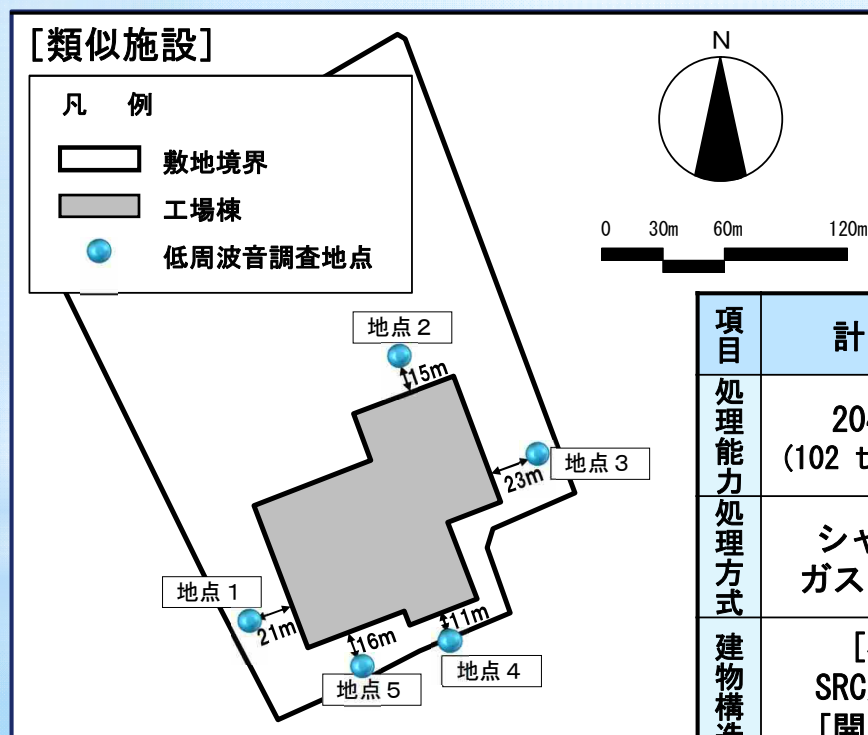
- 対象事業実施区域
- 等振動レベル線
- ▲ 最大レベル地点
- 予測地点

[振動]

単位：デシベル

地点	予測結果	規制基準
	夜間	
最大	37	夜 間：55以下
地点A	35	
地点B	25未満	
地点C	28	
地点D	27	

供用時 ごみ処理施設稼働による低周波音



項目	計画施設	類似施設
処理能力	204 t/日 (102 t/日 × 2炉)	380 t/日 (190 t/日 × 2炉)
処理方式	シャフト式 ガス化溶融炉	シャフト式 ガス化溶融炉
建物構造等	[構造] SRC造、S造 [開始年月] 平成33年度予定	[構造] SRC造、S造 [竣工年月] 平成27年 4月

供用時 ごみ処理施設稼働による低周波音

調査地点	G特性	FLAT	1/3 オクターブバンド中心周波数 (Hz)												
			5	6.3	8	10	12.5	16	20	25	31.5	40	50	63	80
地点1	73.9	73.5	57.0	60.4	55.7	63.0	61.9	58.6	59.8	61.3	67.5	61.6	56.1	55.1	49.7
地点2	68.5	69.1	54.3	52.3	51.3	54.2	55.4	54.0	55.7	57.0	59.1	58.4	55.4	53.0	51.6
地点3	72.8	70.3	52.8	54.0	54.5	55.3	58.4	62.8	57.5	59.4	58.9	57.2	56.8	55.4	52.7
地点4	83.4	83.1	67.1	66.5	66.5	73.8	74.4	72.6	65.1	65.3	69.5	65.8	64.9	62.4	59.8
地点5	82.4	81.8	66.7	68.0	71.1	71.6	70.3	69.6	67.0	71.4	71.2	69.2	67.2	64.6	61.4
参照値 (物的苦情)	—	—	70	71	72	73	75	77	80	83	87	93	99	—	—
参照値 (心身に係る苦情)	—	—	—	—	—	92	88	83	76	70	64	57	52	47	41

※ : 低周波音による物的苦情に関する参照値を上回った値。

 : 低周波音による心身に係る苦情に関する参照値を上回った値。

[G特性音圧レベル]

単位：デシベル

地点	予測結果	参考基準
地点1	73.9	心身に係る 苦情に関する 参照値 92デシベル
地点2	68.5	
地点3	72.8	
地点4	83.4	
地点5	82.4	

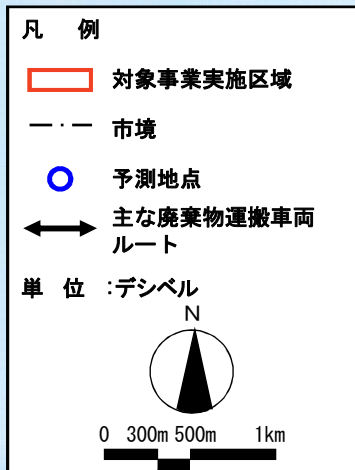
計画施設は、類似施設より処理能力が小さいこと、建屋から敷地境界までの距離が類似施設より長くなることから影響は小さくなるものと予測します。

供用時

ごみ処理施設稼働による騒音・低周波音・振動

- 設備機器類は建屋内への配置を基本とし、騒音の低減に努める。
- 誘引通風機、蒸気タービン発電機等の振動の著しい設備機器類は、基礎構造を強固にする。
- 外部への騒音の漏洩防止のために、工場棟の出入口にはシャッターを設けて可能な限り閉鎖する。
- 蒸気タービン発電機については内側に吸音処理を施した独立部屋に収納し、蒸気復水器については復水器置場の内側に吸音材を設置する。
- 振動の著しい設備機器類は、必要に応じて基礎部への防振ゴム設置等の防振対策を施す。
- 設備機器類は、低騒音・低振動型機器の採用に努める。
- 設備機器の整備、点検を徹底する。
- 低周波音の伝搬を防止するために、処理設備は壁面からの二次的な低周波音が発生しないよう配慮する。
- 低周波音に係る苦情が発生した場合には、聞き取りや現場の確認、測定の実施などにより低周波音の発生状況を的確に把握し、適切な対策を検討のうえ実施する。

供用時 廃棄物運搬車両による道路交通騒音・振動



地点②	予測結果	参考基準	増加量
騒音	67.8	70	0.5
振動	43.5	65	0.5

地点①	予測結果	参考基準	増加量
騒音	68.7	70	0.4
振動	47.9	65	0.5

地点③	予測結果	参考基準	増加量
騒音	67.6	70	0.6
振動	47.2	65	0.7

地点④	予測結果	参考基準	増加量
騒音	63.7	65	0.3
振動	42.7	65	0.2

供用時

廃棄物運搬車両による道路交通騒音・振動

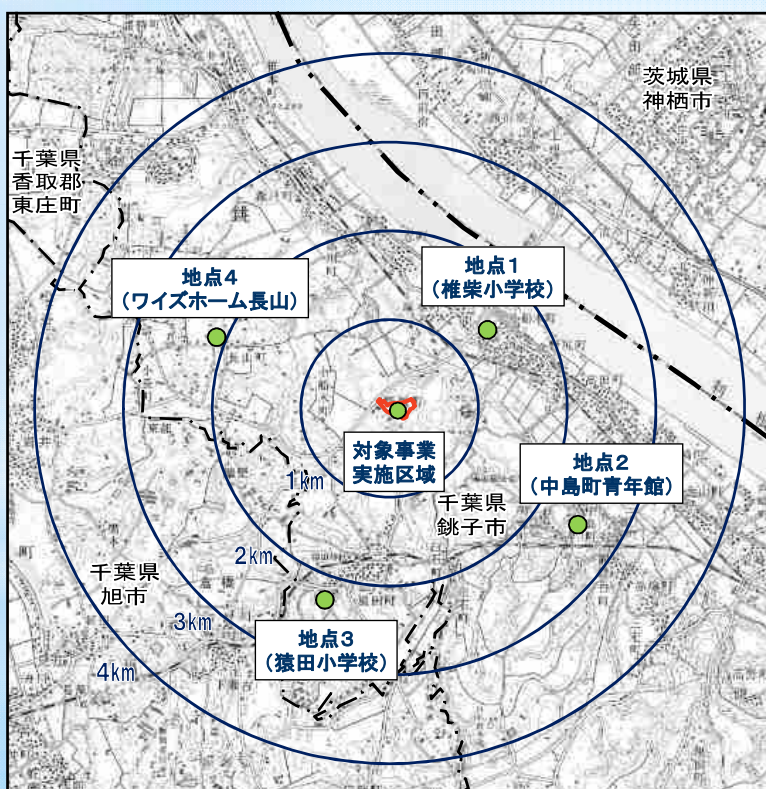
- 廃棄物運搬車両が一定時間に集中しないように搬入時間の分散を行う。
- 対象事業実施区域周辺へ廃棄物運搬車両が集中しないよう、ごみを貯留し積み替えを行う中継施設を設置する。
- 廃棄物運搬車両の通行は、一般車両の多い通勤時間帯などを避けるように努める。
- 不要なアイドリングや空ぶかし、急発進・急加速などの高負荷運転防止等のエコドライブを徹底する。
- 廃棄物運搬車両の整備、点検を徹底する。

悪臭

供用時

- ごみ処理施設稼働による悪臭

【現地調査地点】



【調査結果】

特定悪臭物質濃度

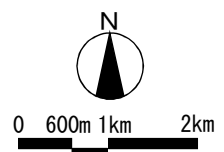
2回とも全ての項目で敷地境界の規制基準を満足していた。

臭気指数

草の臭いが確認された夏季の地点3 (猿田小学校)を除き、いずれの地点も10未満 (臭気濃度10未満)であった。

凡例

- 対象事業実施区域
- 市町境
- 県境
- 悪臭調査地点



供用時 ごみ処理施設稼働による悪臭

○ごみ処理施設に搬入・貯留される廃棄物の影響

- ・類似施設における悪臭の測定結果は、風上及び風下いずれも臭気指数は10未満（臭気濃度10未満）、特定悪臭物質濃度は定量下限値未満となっています。
- ・計画施設では、類似施設と同等以上の悪臭防止対策を実施する計画です。

予測結果

大部分の地域住民が日常生活において感知する以外の臭気を感じしない程度になるものと予測します。

○ごみ処理施設稼働（煙突排出ガス）による影響

気象条件	臭気濃度	アンモニア
		ppm
大気安定度不安定時	10未満	0.1未満
上層気温逆転時	10未満	0.1未満
接地逆転層崩壊時	10未満	0.1未満
ダウンウォッシュ時	10未満	0.1未満
ダウンドラフト時	10未満	0.1未満

供用時

ごみ処理施設稼働による悪臭

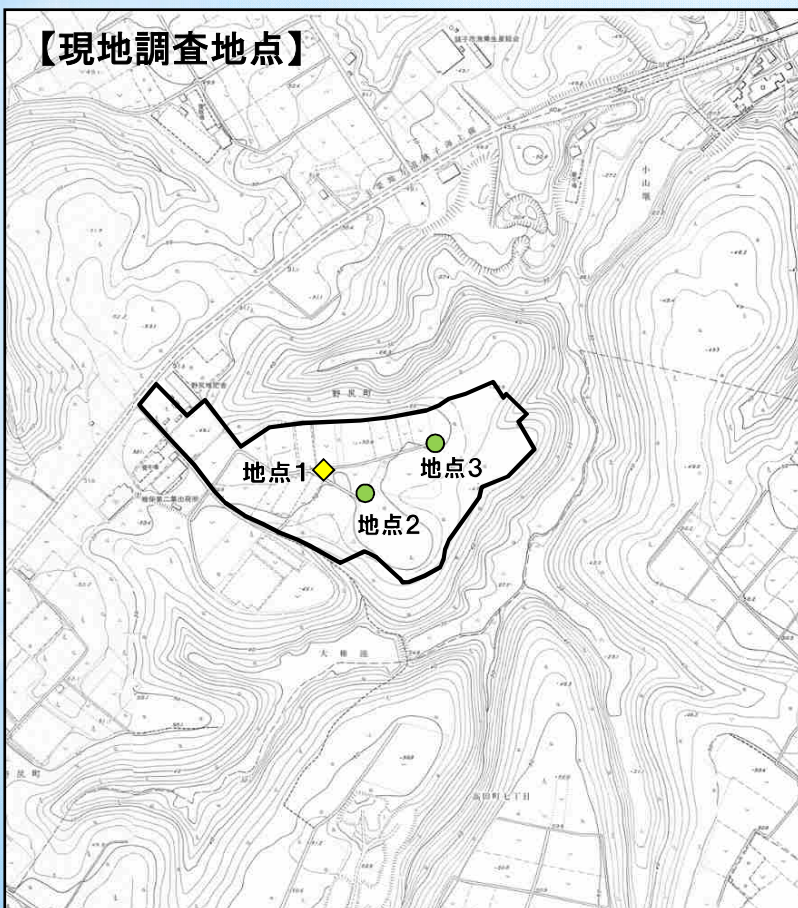
- 廃棄物の保管場所、処理設備等は建屋内への配置を基本とし、搬入や荷下ろし等の作業を屋内で行うことで、臭気の漏洩を防止する。
- プラットホーム出入口にはエアカーテンを設置し、搬出入時以外は可能な限りシャッターで外部と遮断することにより、臭気の漏洩を防止する。
- ごみピットは、防臭性の高い隔壁工法を採用し、ごみピット投入口の扉は密閉性に優れた扉とする。
- ごみピット、プラットホームなどは常に負圧を保つことにより、外部への臭気の漏洩を防止する。
- ごみピット、プラットホームの空気をガス化溶融炉の燃焼用空気として炉内に吹き込むことで、燃焼による臭気成分の分解を行う。
- 休炉時には、ごみピット内の臭気が外部に拡散しないよう、脱臭装置により吸引し脱臭を行う。
- ごみピット、プラットホームには、休炉時など必要に応じて消臭剤を噴霧する。
- プラットホームの洗浄を適宜行う。

土壌

施工時

- 工事の実施による土壌

【現地調査地点】

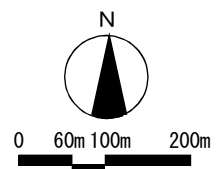


【調査結果】

土壌汚染の現地調査結果はすべての項目で環境基準を満足しています。

凡 例

- 対象事業実施区域
- ◆ 土壌、地下水質、地下水位調査地点
- 地下水質、地下水位調査地点



施工時 工事の実施による土壌

【土壌】

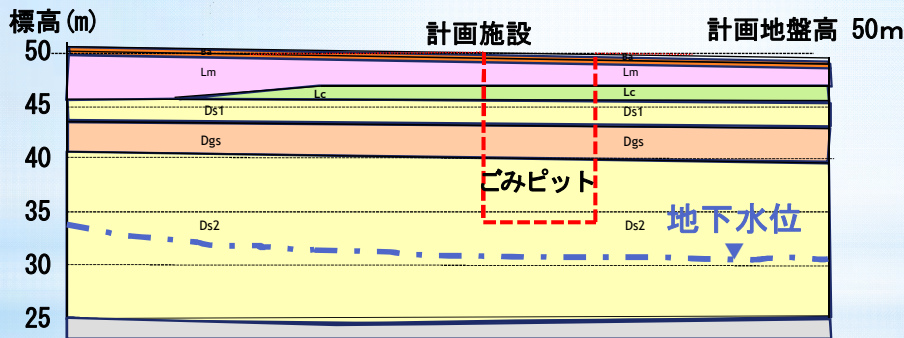
土壌汚染の現地調査結果はすべての項目で環境基準を満足しています。



予測結果

造成工事、基礎工事等に伴う土砂の移動による土壌汚染の影響はないものと予測します。

【地下水】



土層名		記号
表土・人工地盤		Ba
新时期ローム層		Lm
下総層群	常総粘性土層	Lc
	第1砂質土層	Ds1
	礫混じり土層	Dgs
	第2砂質土層	Ds2
	粘性土層	Dc

ごみピットの深さは地下水よりも浅い位置となる計画です。



予測結果

工事による地下水の攪乱はないものと予測します。

施工時

工事の実施による土壌

- 工事に先立ち土壌汚染対策法に基づき調査を行い、汚染等が確認された場合には、土壌汚染対策法に基づく手続きに従い、適切な対応を講じる。
- 対象事業実施区域外へ土壌を搬出する場合は、受入先の受入基準との適合状況を確認する等、関係法令等を遵守し、適正に処理・処分を行う。

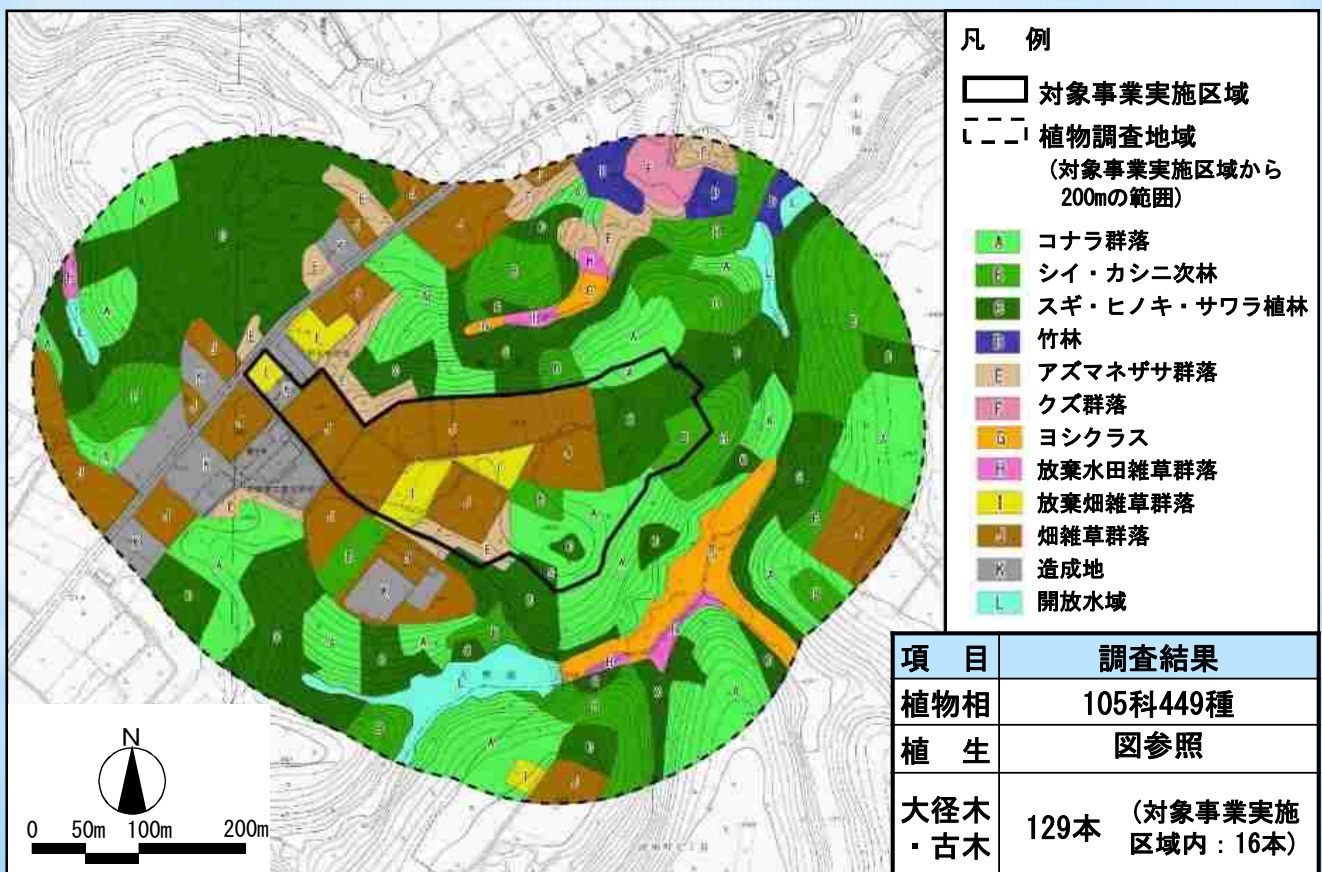
植物

施工時及び供用時

- 工事の実施及び
ごみ処理施設の存在による植物

植物：調査

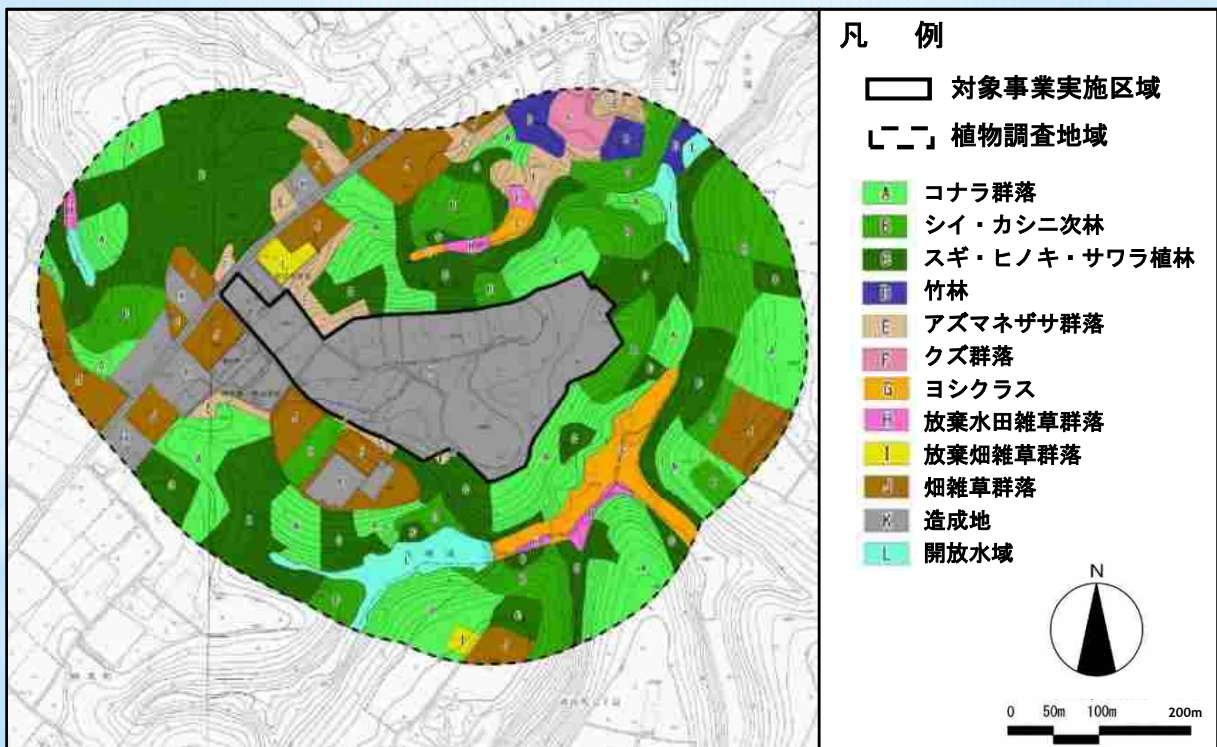
準備書
P7-304~320



○重要な種

項目	種数	重要な種
植物	24種	ナガバノイタチシダ、ヤナギイノコズチ、オオバウマノスズクサ、ネコノメソウ、アケボノソウ、イガタツナミソウ、タニギキョウ、ヌマダイコン、ホトトギス、ムツオレグサ、スズメノカタビラ、ミミガタテンナンショウ、オニスゲ、オタルスゲ、マシカクイ、エビネ、ギンラン、キンラン、ササバギンラン、サイハイラン、ミヤマウズラ、シュスラン、コ克蘭、ヨウラクラン

施工時及び供用時 工事の実施及びごみ処理施設の存在による植物



施工時及び供用時 工事の実施及びごみ処理施設の存在による植物

項目	予測結果
植物相	直接的な改変により、対象事業実施区域内の植物は一部を除き消失するが、周辺に同様の植生は広く残されることから、植物相に変化はないものと予測します。
重要な種	<p>重要な種のうち、ギンランについては、周辺に個体が見つかっておらず、対象事業実施区域内の個体は直接的な改変をうけると予測します。</p> <p>環境保全措置 工事による影響を受けない場所への移植を行い、個体の保護を図るものとします。</p>
地域の特性を把握するうえで注目される種	コナラ群落の面積の減少の程度が小さいことから、コナラ群落への影響は小さいものと予測します。
植物群落	各々の群落は、対象事業実施区域外にも広く存在しており、植物群落の構成比は変化するものの、群落の種類や各群落の階層構造については、大きな変化は生じないものと予測します。
植生自然度	供用時における植生自然度は造成地が増えることから、植生自然度1が12.6%増加するものと予測します。

施工時及び供用時

工事の実施及びごみ処理施設の存在による植物

- 施工時における工事用道路や施工ヤードを対象事業実施区域内において確保するとともに、本事業による改変面積が可能な限り小さくなるよう配慮する。
- 生育が良好な既存の樹木を極力保全する。
- 植栽する樹種は計画地の立案条件を考慮し、可能な限り周辺に生育する種(在来種)を多く用いるものとする。
- 千葉県自然環境保全条例に準拠し、20%(0.96ha)以上を緑地とする。
- 緑地における植栽は、事業によって減少するコナラ群落の構成種を積極的に利用するとともに、動物の生息地としての機能も考慮し、やむを得ず対象事業実施区域外のコナラ群落を改変する場合は、原状復帰に努めるものとする。

施工時及び供用時

工事の実施及びごみ処理施設の存在による植物

- 対象事業実施区域の敷地境界付近に生育する重要な植物種については、調査結果をもとに詳細設計段階において可能な限り現状のまま残すように検討するとともに、現状のまま残せる場合には、工事開始前に生育位置を確認し、誤って改変しないように配慮する。
- 事業により100%の消失が予測された植物種であるギンランについては、移植を実施して個体の保護を図るものとする。
- 重要な種の移植にあたっては、専門家の指導・助言や最新の知見をもとに、移植対象種に適した移植方法を検討するとともに、環境の類似性、保全対象種の生育の有無、土地の担保性を考慮して、移植候補地を選定するなど、移植成功率を高めるために努力する。
- 対象事業実施区域内のみに生育するタブノキの大径木は、可能な限り保存に努めるものとするが、やむを得ず伐採する場合は、対象事業実施区域外の同種高木について、動物の生息基盤となりうる大径木に成長するように努める。

動物

施工時及び供用時

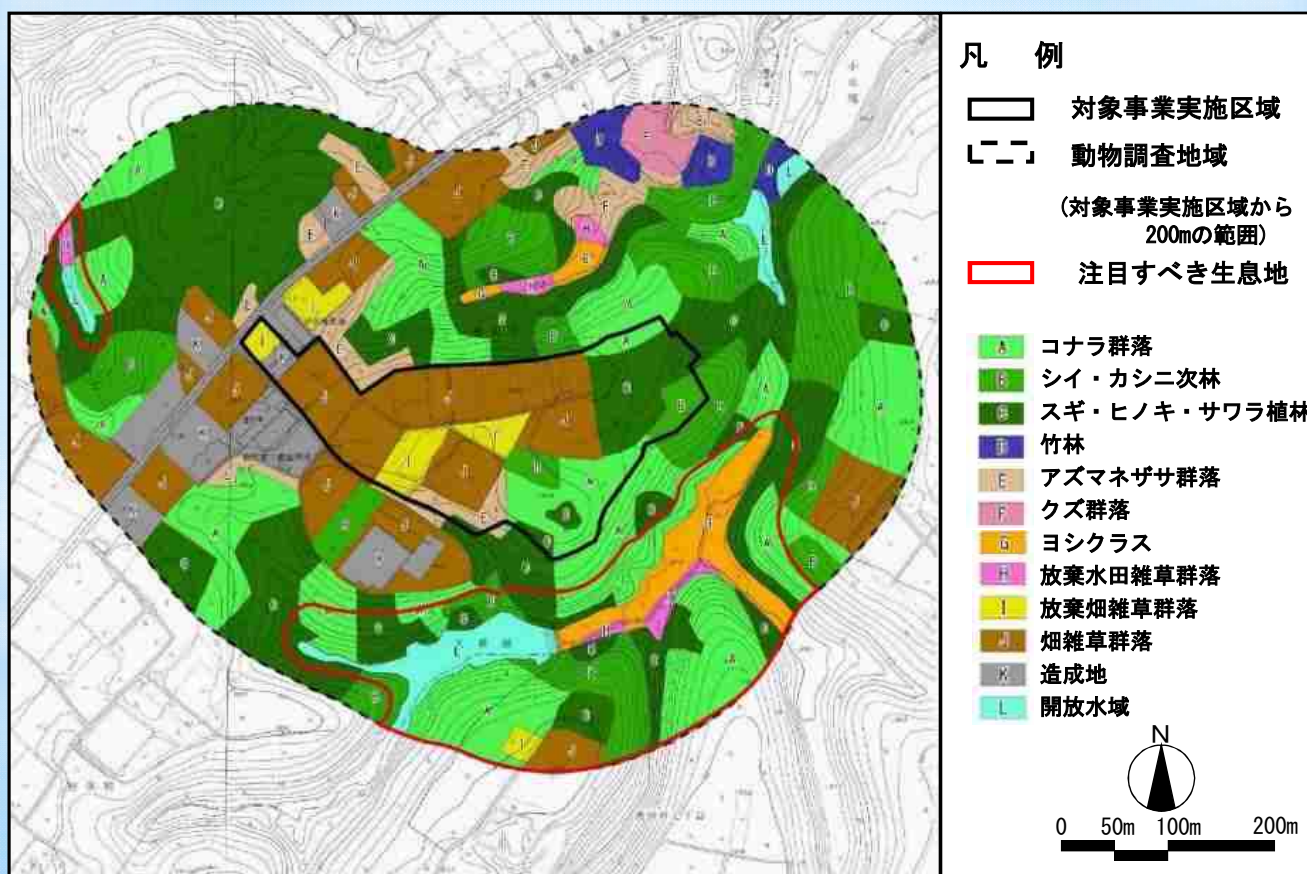
- 工事の実施及びごみ処理施設の存在・稼働による動物

○確認種数・重要な種

項目	確認種数	重要な種	
哺乳類	8科11種	0種	—
鳥類 (猛禽類除く)	31科47種	20種	カイツブリ、カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、フクロウ、ヒクイナ、コチドリ、チュウシャクシギ、ツツドリ、ホトギス、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、コシアカツバメ、サンショウクイ、セッカ、キビタキ、ホオジロ、オオジュリン
猛禽類	3科10種	9種	ミサゴ、ハチクマ、トビ、サシバ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ
両生類	5科6種	4種	トウキョウサンショウウオ、アズマヒキガエル、ツチガエル、シュレーゲルアオガエル
爬虫類	4科4種	4種	ニホントカゲ、ニホンカナヘビ、アオダイショウ、ニホンマムシ
昆虫類	256科1,033種	14種	セスジイトトンボ、カトリヤンマ、ヤブヤンマ、ヤマサナエ、コノシメトンボ、ヤマトシリアゲ、アサギマダラ、アサマイチモンジコハンミョウ、ヒゲナガハナノミ、サシゲチビタマムシ、キロテントウダマシ、ホシベニカミキリ、フトネクイハムシ

○注目すべき生息地

調査地域内では、対象事業実施区域内にはかからないものの、対象事業実施区域の北西側100m程度離れた区域及び対象事業実施区域の南側50mの場所に、トウキョウサンショウウオやアズマヒキガエルの繁殖地が確認されていることに加え、哺乳類、両生・爬虫類、昆虫類の重要種が複数種確認されており、注目すべき生息地となっている。



施工時及び供用時 工事の実施及びごみ処理施設の存在・稼働による動物

項目	予測結果
動物相	生息場所の改変が小さいことから、予測地域に生息する動物相については、ほとんど変化しないものと予測します。
地域を特徴づける種 または 指標性の 高い種	フクロウは、採餌環境が調査範囲周辺の類似環境にやや広がる可能性はあるが、分布域は大きく変化しないと予測します。 ヤマサナエについては、生息・産卵環境になりうるヨシクラスや放棄水田雑草群落は改変されないため、分布域は変化しないと予測します。
重要な種	トウキョウサンショウウオについては、樹木伐採や土地の改変により水文環境が変化した場合には、生息状況が変化する可能性があるかと予測します。
注目すべき 生息地	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>環境保全措置 伐採後裸地化した場所は、水文環境への影響が小さくなるよう可能な限り速やかに緑化を行います。</p> </div>

施工時及び供用時

工事の実施及びごみ処理施設の存在・稼働による動物

- 施工時における工事用道路や施工ヤードを対象事業実施区域内において確保するとともに、本事業による改変面積が可能な限り小さくなるよう配慮する。
- 生育が良好な既存の樹木を極力保全する。
- 植栽する樹種は、対象事業実施区域の立案条件を考慮し、可能な限り周辺に生育する種（在来種）を多く用いるものとする。
- 生活排水は高度処理型合併処理浄化槽により処理した後、「注目すべき生息地」を避け、小山堰へ流れ込む公共用水域に放流する。
- 千葉県自然環境保全条例に準拠し、20%（0.96ha）以上を緑地とする。
- 緑地における植栽は、事業によって減少するコナラ群落、シイ・カシ二次林の構成種を積極的に利用するとともに、動物の生息地としての機能も考慮し、やむを得ず対象事業実施区域外のコナラ群落、シイ・カシ二次林を改変する場合は、原状復帰に努める。
- 伐採後裸地化した場所は、水文環境への影響が小さくなるよう可能な限り速やかに緑化を行う。